詫間中学校
学校通信
浦島伝説
平成21年12月15日
第 30 号

新

日本漢字能力検定協会は、漢字に対する関心を深めるため、そして漢字が持つ奥深い意義を伝える活動の一環として、その年の世相をあらわす漢字を公募し、その中の最も応募数が多かった漢字を「今年の漢字」として発表しています。

そして、今年は１２月１１日に発表され、「新」に決定しました。「鳩山新内閣」「新型インフルエンザ」「亀田新チャンピオン」という世相を反映し、「世の中が新たな一歩を踏み出した今、新しい時代に期待したい」などといった応募者の思いが込められているようです。（ちなみに過去の漢字も調べてみました）

1995年「震」…阪神淡路大震災
1996年「食」…Ｏ１５７食中毒、狂牛病
1997年「倒」…山一証券など大型倒産続出
1998年「毒」…和歌山カレー毒物混入
1999年「末」…世紀末
2000年「金」…シドニーオリンピック
2001年「戦」…米国同時多発テロ
2002年「帰」…北朝鮮に拉致された方帰国
2003年「虎」…阪神タイガースリーグ優勝
2004年「災」…台風、地震、豪雨等の天災
2005年「愛」…紀宮様ご成婚、愛・地球博
2006年「命」…いじめによる子どもの自殺
2007年「偽」…食品偽装
2008年「変」…日米の政治の変化

また、この「新」という文字は、詫間中学校の今年１年を表す漢字であるとも言えます。新型インフルエンザによる学校閉鎖、新体育館建設開始、そして何より、生徒会スローガン「新志新風」のもと、新しい詫間中学校をみんなで創っていこうとしていることなどがあげられるからです。

さて、部活動においても、１０月から始まった「地区新人戦」がひとまず終わりました。新しいチームでの初めての戦いの中で、多くのことを学んだことでしょう。失敗して涙を流した人もいるかもしれません。

しかし、乙武洋匡さんは、著書「五体不満足」の中で、「『失敗』と書いて『けいけん』と読む」と書いています。何事も最初からうまくいくはずはありません。うまくいかなかったことを次に生かすことができれば、それでいいのです。本当の『失敗』とは、同じあやまちを何度も繰り返すことなのです。

今年も残り半月。新しい気持ちで新しい年を迎えるためにも、今年をじっくりと振り返ってみましょう。

師も走る月

旧暦の１２月を「師走（しわす）」と呼び、現在でも新暦の１２月の別名としても用いられています。「日ごろ落ちついている学校の先生も忙しくて走りまわる月」「正月前にお経をあげるため、お坊さん（法師、導師）があちこちの家々を忙しく走りまわる月」などが語源であると言われています。

詫間中学校においても、師走の風景が見られます。先生方は、朝早くから寒さの中、靴置き場、自転車置き場、校外立哨など、それぞれの持ち場で生徒たちを出迎えてくれています。これは師走に限らず、４月からずっと続いている光景です。また、２学期末懇談に向けて、成績処理や通知票作成などに大変ですが、放課後はまず部活動の指導をしてからの仕事になります。生徒がいる間は、できるだけ生徒にかかわってくれているため、その分、帰るのが遅くなってしまいます。さらに、３年団の先生方は、１月から始まる高校入試に向けての調査書の作成や進路指導などにも多くの時間を割いています。先日は、校長、教頭なども加わって「進路検討委員会」を実施し、１０７名全員の進路について検討しました。「この子は１、２年生の時からまじめに取り組んだ結果が数字にも表れているので、この調子で頑張れば大丈夫でしょう」「今のままではちょっと厳しいなあ。次のテストの結果を見てみないとわかりませんね」など、一人一人の生徒について話し合っていきました。そこで感じたことを２つ。１つ目は、学級担任は生徒のことをよく見ているし、生徒の将来を真剣に考えているなあと感心したことです。もう１つは、現実の厳しさです。「行きたい」だけではダメです。「行くためにどうするか」をしっかり考えて実行しないと道は開けません。「１点」に笑い、「１点」に泣くことだってあるのです。最後に慌てて走り回らないようにしておいてほしいと思います。

◆◇◆◇◆◇◆◇　新型インフルエンザワクチンの接種について　◆◇◆◇◆◇◆◇

三観医師会では、来年１月９日～２０日頃までの土日、休業日等に校医さんの病院（平林医院）での集団的接種を実施する計画があるそうです。そこで、ワクチン接種希望者の概数を把握するための調査を行いました。具体的な日時や実施方法などが決まればお知らせするとともに、改めて希望調査を行います。